

上級システムアドミニストレータ連絡会における、パブリックコメントに対する会員からの感想文集

本稿は、上級システムアドミニストレータ連絡会での「パブリックコメント作成プロジェクト」において、プロジェクトメンバーがまとめた「パブリックコメント」に対して、当会のメーリングリストにて意見交換された内容から抜粋して『感想文集』として集約したものである。

意見交換の内容は、「上級システムアドミニストレータ」という人材像にとって、その資格保有者自身が考えるふさわしい名称とは何か？であったり、実際の現場における会員本人の活動事例と、それを通じて日々感じている課題認識など多岐にわたった。

しかし、その内容は、国策としての取り組みに対して少しでも寄与すればとの思いからの情報発信であり、パブリックコメントを補完する重要な内容であるとの判断から、上級システムアドミニストレータ連絡会としてのパブリックコメントに同報のかたちで投稿するものである。

なお、『感想文集』の作成に際しては、当会の会員がメーリングリストに投稿したコメントを極力原文に近いかたちで掲載している。

○感想文－1. (建築会社勤務、経営企画部門)

パブコメの案を拝見しました。

私が常々感じていること、今回の案を見て言いたいこと等、ほぼ同じ趣旨のことがじゅうぶん指摘されていると感じます。ということで、具体的に修正案とかではありませんが、私の考えていることを私の言葉で書いておきます。

私も皆さんのご指摘・パブコメ案にあるとおり、両者のITスキルはほぼ同じ(強いて言うとAN:システムアナリストの方が専門性を要求)、相違点はSD:上級システムアドミニストレータはユーザー側(業務が第1メイジャー)という点だと自分の中で整理しています。

国は、日本の産業や生産性を向上させて、経済的国際競争力を至急強化しなければならぬと焦っていると思います。

そのため、IT活用による生産性向上やイノベーションが必要だと位置付けています。

そのような生産性向上やイノベーションを起こすためには、ITと、そもそもの事業とが交差し、垣根を越えて出あうことが必要です。イノベーションが起きるのは、異なる概念や世界観が出あったときだといわれているからです。

要は、ITと事業スキルのダブルメイジャーが、それぞれの事業の数だけというか、それ以上にというか、生まれなければなりません。その人材が生まれる(育てる)方向性は言うまでもなく2つあって、ITスキルを修めた人が事業スキルに手を伸ばす方向と、事業スキルを修めた人がITスキルに手を伸ばす方向です。

前者もちろん可能ですが、ITスキル自体の変化が早く、そのキャッチアップだけでもけっこうパワーをとられているように見えます。また、IT人材自体が足りないと言われているのに、他のあまたの事業の分だけダブルメイジャーに人を配っていくのは頭数不足と考えます。その点、後者は事業スキルを持った人は、すでにどの会社にもいます。その人たちが、ITの最新のところのポイントだけでもしっかり習得すると、「ユーザー側からのIT人材」、SDになります。

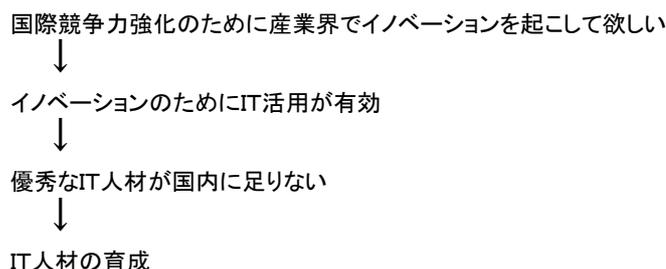
その人は、事業スキルを持った人たちの中で、一人だけ(?)ITとの垣根を越えて、新しい第3の世界観を見てしまいます。だからこそイノベーションを起こせる(業務改革のビジョンを描ける)可能性があります。周囲の事業スキルだけの先輩たちに、その第3の世界観を伝え、共有して、そちらへ向けて組織を動かしていかなければいけません。それが**チェンジリーダー**になるといことだと思います。それをやり遂げるため、コミュニケーション力が必要だし、事業の人たちから信頼されなければいけないし、問題提起をしなければいけないし、タフでなければいけません。

いざ、第3の世界を実現するためのことは、ITスキルに詳しい人や社外の人を連れてきてやってもらうことも可能ですが、その人たちを連れてくるまでにはユーザー側にいる**チェンジリーダー**がやらなければ、やる人(イノベーションの火をまず上げる人)は他にいません。だから、ITの専門性よりも**チェンジリーダー**としてのスキルの方が必須になります。

第3の世界を見せることも、ITも扱う社外のコンサルタントなどでももちろんじゅうぶん可能です。でも、そういう人たちを、これまで通りに、きちんと事業をやっている組織に誰が連れてくるのか。最初に予算を取って、連れてきて、ここの提案をしてくれ、と言う人がどうしても必要です。

私も、SDとANのまたがったところで両方の仕事をしているのだらうと思いますが、外部の専門家やコンサルタントを連れてくるまで、SDとして大きな仕事の一つだと思っています。

よって、候補者の頭数の問題からいっても、イノベーションにつながる登場順という点からいっても、ユーザー側のSDを育てることが迅速であり効果的であり重要だと私は考えています。国や経産省の展開は、



と展開してから、試験制度を見直そうとしてしまっているために<IT側人材の育成ありき>になってしまっているように見えます。

○感想文ー2. 「高度IT人材の育成をめざして(案)」に準拠した
『上級システムアドミニストレータ』の名称について (複数意見)

意見① (ITベンダー勤務、プロジェクト管理部門)

JSDGのパブコメまとめ案の中においても、現状では、「ストラテジスト」という名称に対する違和感が残っているようです。これは、人材類型の「基本戦略系人材」としての「②ストラテジスト」が、UISSの「ビジネスストラテジスト」「ISストラテジスト」「プログラムマネージャ」と、ITSSの「コンサルタント」、そしてETSSの「プロダクトマネージャ」を包含しているから、そのネーミングが、「プログラムマネージャ」のニュアンスを置き去りにしてしまっているように感じられるのだと思います。つまり「戦略家」の側面だけでなく「推進者」の意味も込めればよいのではないのでしょうか？

昨夜から色々考えた、私なりの言葉は『Strategist』に対して、『Promoter』です。

ストラテジーありきで、変革の「普及啓蒙活動」を前提とするなら、しかるべき『Evangelist(エバンジェリスト)』(伝道者)の指導の下に、『Champion(チャンピオン)』(仕掛け人、推進派)という表現もあります。・・・とすると、『ストラテジー・プロモーター』『ストラテジー・プロモーション』『ストラテジスト&プロモーター』『ストラテジー・チャンピオン』でしょうか？

ただ、ここまで考えてくると、人材類型の「基本戦略系人材」としての「②ストラテジスト」の括りそのものが曖昧であることがよくわかってきます。

R社における FIT(Federation of IT)の将来像としての6つのコア人材像として、

・ITストラテジスト	構想練築者(こうそうれんちくしゃ)
・ITイノベータ	新機軸導者(しんきじくみちびきもの)
・ITマイスタ	臨界破戒者(りんかいはいかいしゃ)
・ITプロデューサ	構造具現者(こうぞうぐげんしゃ)
・フィールドアドミニストレータ	真髓迫掘者(しんずいはくつつか)
・プロジェクトマネージャ	真義完遂者(しんぎかんすいしゃ)

というネーミングを紹介いただきました。これをヒントにすると、「上級システムアドミニストレータ」は、「ITイノベータ」や「ITプロデューサ」になるのでしょうかね。これらの日本語命名にも、興味深いものがあります。

ただ、ITをプロデュースするわけではなく、ITを用いてIS(情報システム)をプロデュースするわけですから、個人的には、「ISプロデューサ」のネーミングのほうが好ましいのですけど。

意見② (医療機関勤務、医師)

「ストラテジスト」という括りは、なんとなくAN的なイメージが強いような気がしますね。ANとSDの最大公約数的なイメージを言葉で表現するとすると、「システムディレクター」みたいになるのでしょうか。ただ、やっぱり発想の原点が違いますから、これらをひとまとめに扱うのは難しいですね。

SD的な立ち位置をわりとよく表す言葉のひとつとして、「コーディネータ」は「あり」のような気がします。(「システムコーディネータ」とか)。

ただ、これに関しては別の資格として(キャリアパスの上のほうに)「ITコーディネータ」というのが既にあるので・・・(中略)

以前にも少し話題に出たことがあります。医療の分野でのシスアド的存在として「医療情報技師」という資格認定があり、これを創設した医療情報学会の部会が「医療情報技師の「モットー」みたいなものとして掲げたのが「3C」すなわち「Coordination、Collaboration、Communication」というものです。これって実にシスアドの役割だと思ったものです。

○感想文ー3. (製造メーカー勤務、技術企画部門)

平成6年秋からの情報処理技術者試験見直しにより、「利用者側で情報化をリードする人材」として、その重要性の認識のもとに新設され、強化・再編されてきた「システムアドミニストレータ(後に、初級システムアドミニストレータに改称)」、「上級システムアドミニストレータ(実際の試験開始は平成8年から)」が、今回の見直しによりなくなってしまう。しかも「利用者側で情報化をリードする人材」という概念すらなくなってしまうことに、IT人材の育成のベースとなるべき貴重な利用者側人材を考慮することが置き去りにされている。あるいは時代への逆行すら感じます。

利用者側人材をITのわかる人材に育成することが重要である点が弱くなってしまっている気がします。

いずれにしても、「パブリックコメント」に記載された内容が考慮・反映され、よりよい姿に見直されることを期待します。

- 以上 -